リゾート行動モデル作成のための実証的研究
ー 欲求構造とリゾート地選択構造に関する実証的分析を主としてー

立命館大学理工学部　正員　春名　攻
東洋技研コンサルタント　正員　金城　昌幸
立命館大学大学院　学生員　山田　孝弘
立命館大学理工学部　学生員　○佐々木　隆
立命館大学理工学部　学生員　越名　健

1．はじめに

近年わが国では、国民の所得水準の向上や自由時間の増大、さらには、生活価値観の多様化等に伴う余暇需要の増大を背景に、全国各地で地域振興の一手段としてのリゾート開発が脚光を浴び、ブームの様相を呈している。しかしながら、これらのリゾート開発計画の中には画一的な内容のものが多く、開発事業の実現性や市場性について検討されていない計画も多数見受けられる。そこで、昨今のように、多様化する社会の中、より効果的なリゾート開発を行うためには、新規に需要を創造することや潜在的需要を顕在化していくような需要者側からのアプローチが必要であり、この「需要創造」、「需要開発」の具体的な戦略を策定する際の一手段として、潜在的リゾートニーズの把握が重要であると考える。本研究では、以上のような認識に基づき、リゾート行動に関するアンケート調査の結果からリゾート行動の分析を行った。まず、単純集計およびクロス集計により１次分析を行い、さらに、この分析結果に数量化Ⅱ類を適用して要因分析を行い、リゾート行動におけるリゾート欲求およびリゾート地選択に影響を与える要因に関して関連分析を行う事とした。

2．リゾート行動に関する意識分析

本研究では、リゾートに関する需要は各個人のリゾート行動の集合から構成されることから、前提条件としてリゾート客のリゾート行動の仮説を設定し、この仮説に沿って研究を進めていくことにより研究としての方向性を明確にすることができると考えた。図－１にリゾート客のリゾート行動を概念的に図式化したものを示す。この仮説に基づいて、アンケート調査の質問項目を設定し、各行動段階のリゾート行動解明のための分析を行った。

（１）リゾート行動仮説の概略的説明

本研究では、人のリゾート行動における仮説として次のように設定した。

経済・技術水準や歴史・文化生活様式・政治などの様々な要因で構成されている社会的環境（外的環境）の中で、様々な刺激を受けながら、人はそれぞれの属性である個人的環境（内的環境）を形成しており、これらが価値観や行動様式に影響を与えているということを前提とした。

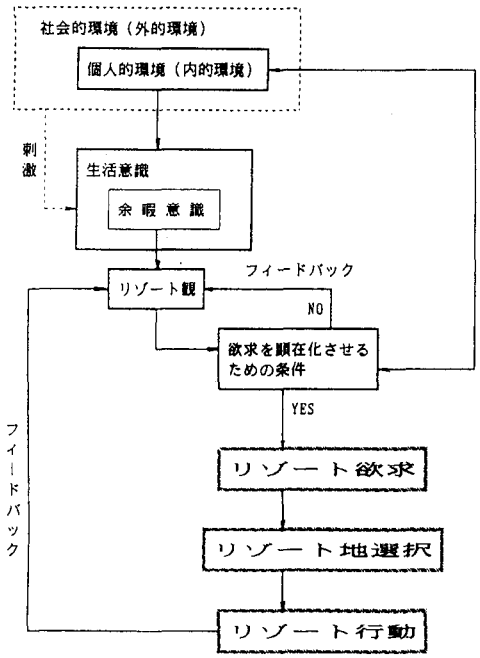
本研究では、個人的環境（内的環境）における意識分類の仕方として各種の設定方法はあるが、リゾート行動に関わるものとして、生活意識が社会的環境（外的環境）から情報などの刺激を受けながら存在して、思考やライフスタイルに影響を与えていると仮定し、さらに、リゾート行動や趣味などの余暇に対する意識をも含むものとした。そして、その余暇に対する意識がリゾートに向けられたとき、情報，あるいは過去の経験などから、リゾート観が形成されると考えた。ここまでは、リゾート行動に対する欲求は潜在化しており、自覚がないものと考える。

次に、欲求が顕在化するまでには、リゾート観や個人の状況を基に欲求を顕在化させるための条件を自分なりに設定し、それをクリアーできれば欲求を顕在化させ、またクリアーできなければそれを個人の中の情報としてリゾート観にフィードバックされるとした。そしてリゾート欲求が顕在化すれば、具体的に求めるリゾート地を選択し、リゾート行動に移ると仮定した。最後に、行動して自分なりの処理・加工を行ない、客観的な情報として、リゾート観

Mamoru HARUNA, Masayuki KANESHIRO, Takahiro YAMADA, Takashi SASAKI, Takeshi KOSHINA

にフィードバックするものとした。

このように、本研究では人のリゾート行動を各種の欲求が集合した形で潜在的なリゾート欲求が生まれる段階と自らの評価・判断によりいくつかの欲求を選択し、それが顕在化することにより具体的なリゾート地の選択へと移行していくという二段階プロセスを仮定した。



図－１　　リゾート行動の顕在化プロセス

（２）アンケート調査

調査項目は、前述の行動仮説に沿って設計した。その内容は、個人属性、リゾート観、リゾート欲求意識、そしてリゾート地を選択する際に考慮した事柄等々から構成した。これらの調査を平成２年１２月から平成３年１月の期間に近畿圏の企業に勤務する２０歳以上の男女およびその家族を対象にして実施し、その結果有効サンプル数３５５部(回収率82.2%）を得た。

（３）調査結果

ａ)個人属性

回答者の特徴としては、性別および年齢別にみると２０歳代を除くと女性の割合が若干少ないとはいえ、２０歳代、３０歳代、４０歳代、５０歳以上の各年代層の男女がほぼ平均的な割合で分布しており、それぞれの意見を反映した調査結果が期待できる。職業については、男性のほとんどが会社員・団体職員であるのに対し、女性は２０歳代においては会社員が60.1 %と大部分を占めているが、３０歳代、４０歳代、５０歳以上の女性についてはパートタイム・アルバイトおよび専業主婦が半数を占めており、定職を持っていないために、女性について、仕事および余暇活動に関する意識の違うデータの出ることが期待できる。生活環境として、現住所については、アンケートの対象を近畿圏の企業に勤務する人およびその家族としたこともあり、大阪・京都・神戸の３都市とその周辺地域に集中しており、比較的に都会的な便利さをもった生活圏で生活するサンプルだということが推定できる。

ｂ)リゾート観およびリゾート行動意識

まず、最近流行のリゾート地を知っているかという設問に対し、「知っている」と解答した人が83.6 %と圧倒的に多く、リゾート地に対する情報はかなり広く行き渡っている事がわかる。また、過去にリゾート地に行った経験があるかについては、やはり大部分の83.6 %が「経験がある」と答えており、年代層の若いほど割合が多くなっている。

次にリゾート地に行くことに対する質問に対しては大部分の85.6%が「条件が整えば行ってみたい」と回答しており、また、近い将来（１・２年以内）のリゾート地に行く予定については、86.6%とほとんどが「予定がある」と解答している。従って、リゾート行動の制約条件を探索し、その条件を考慮したリゾート開発をおこなうことで、潜在的リゾートニーズを顕在化へと高めることができると考える。

３．リゾート欲求、リゾート地選択に関する分析

（１）分析の概要

ここでは、アンケート調査で得られたデータのうち、リゾート行動におけるリゾート欲求およびリゾート地選択の２段階に注目し、それどれの段階に影響する要因およ要因間の関連について分析をおこなった。それぞれの段階について、まず単純集計およびクロス集計による一次集計による分析を行うことにより、それぞれの段階における要因の抽出および要因間の関連を分析した。次に、一次集計結果に基づいて、リゾート行動への意識の質問に「条件が整

えばいってみたい」と解答したサンプルに対して、リゾート欲求構造とリゾート地選択構造を策定するため、それぞれの影響要因とその関連性を数量化Ⅱ類を用いて分析を行った。

（２）リゾート欲求の直接要因に関する分析結果

ａ)一次分析結果

ここでは、リゾート欲求の直接要因を「個人の状況」「リゾート地で得られるもの」「リゾート地の特性」の３分類し、それぞれの全ての項目について平均を算出し順位づけを行った。その結果、１位の「個人の状況」では総費用，過去の思い出，連続休暇，同行者の順で平均が高かった。これは、経済面と時間面が欲求を顕在化させる絶対要因として規定でき、特に時間面では社会的に休暇日数が増加傾向にあるが、まだまだ不足感があると考えられる。同行者については、需要者が個人行動よりも団体行動を好むことが考えられる。　２位の「リゾート地の特性」では「静かさ」，「リゾート地までの距離」，「交通の利便性」の順で平均が高かった。まず、「静かさ」はアンケート調査を比較的都市部で行ったことや後述する「リゾート地で得られるもの」で精神性，日常生活からの遊離に関係する項目の影響度が大きいことなどから、リゾート地の持つ雰囲気として「静かさ」を最も重要視していると考えられる。次に、「リゾート地までの交通の利便性」と「リゾート地までの距離」については、実際にリゾート地に行く際に限られた時間をリゾート地で有効に使うために移動をできるだけ効率良くしたいという意識があることや、リゾート地そのものの魅力だけではなく距離との関わりで欲求の度合が変わってくるということが考えられる。

３位の「リゾート地で得られるものについては、精神的ゆとりやくつろぎ，解放感，自然とのふれ合い，ストレスの発散，精神的豊かさや贅沢感の順で平均が高かった。これらは、全体的に精神面での落ち着きや充足などの動より静をリゾート行動に求めていることがわかる。

ｂ)高次分析結果

ここでは、「条件が整えばリゾート地に行く」という意識を持っていることを制約条件として、直接要因を説明変数とした林の数量化理論第２類を用いた高次分析を行うことにした。そこで、リゾート欲求の間接要因に関する分析結果および本研究グループの研究成果よりリゾート関心度に最も強い影響を与えるという結果より、外的基準を年代層とすることが妥当であると判断した。

分析結果は表－１に示すとおりである。相関比は0.6362とある程度高い値となっている。

分析の結果、年代層別のリゾート欲求の直接要因に大きな影響を与えるのは、範囲（レンジ）の大きさから判断すると、解放感，ストレスの発散，子供の教育，その地域の独特なもの，季節感などが順位として高かった。解放感やストレスの発散については日常生活において、仕事（家事），時間的圧迫，対人関係などによるストレスを感じる度合が年代層により異なることが影響していることが考えられ、特に若い年代では仕事に対する緊張感、中年層では責任感が影響していると考えられる。また、子供の教育については、年代層と子供の年齢が関わっており、子供が幼少であったり思春期である年代層ほど影響が強いと考えられる。その地域独特のものについては、若い世代には目新しい刺激として、高年齢層には昔を回顧できるものとしてリゾート欲求に影響を与えると考えられる。最後の季節感については、軽井沢などの著名なリゾート地が避暑のイメージが強いことや、若い年代層には夏はマリンスポーツ，冬はスキーなどの余暇がイメージとして定着しつつあることが影響していると推測できる。

（４）リゾート地選択段階の要因分析

ａ)一次分析

まず、リゾート地選択の直接要因を抽出するにあたって、直接要因を「個人の状況」「リゾート地までのアクセス条件」「リゾート地の資源及びその特性」に３分類して、その優先順位をつけた。さらにそれぞれ中の項目に影響の度合を１から５に取り平均を出した。優先順位１位の「個人の状況」においては、「リゾート地での滞在日数」が4.159、「リゾート行動に使う全費用」が4.124と平均が高く影響の強い項目として挙げられる。よって、リゾート地を選択する際にも時間面および金銭面がかなり重要な要因であることがわかる。次に優先順位が２位の「リゾート地の資源及びその特性」については、「自然資源の魅力」が4.221、「リゾート地の雰囲気」が4.032と影響の強い項目として挙げられる。さらに、

その具体的な魅力として、自然資源の魅力が影響すると回答したうちの44.6 %が「景観の美しさ」を、リゾート地の雰囲気が影響すると回答したうちの34.6 %が「清潔できれいな雰囲気」をあげている。リゾート地の特徴の魅力としては、美しさ、清潔さ、きれいさといった精神的、感覚的な満足を望んでいることがわかる。優先順位３位の「リゾート地までのアクセス条件」については、「交通費」が3.957、「道路の渋滞度」が3.917、「移動の快適性」が3.763と影響の強い項目として挙げられる。ここで、交通費はどうしても意識するものの、それと同レベルで道路の渋滞や乗り物内の混雑といった不快さを意識していることが推定できる。

b)高次分析結果

ここでは、リゾート欲求と同様に、リゾート地選択の直接要因に関する年齢を外的基準とした数量化Ⅱ類による分析結果を表－２に示す。相関比は０．３２４５と決して高い値ではなかった。

分析の結果、年齢の分類に最も影響力の強い要因すなわち年齢による意識の違いの最も大きい要因は表－２の結果における範囲の大きさから判断すると「自然資源」であり、続いて「リゾート行動にかかる全費用」、「スポーツやレクリエーション等のリゾート施設」、「宿泊施設」の順となっている。自然資源が大きく寄与することは、各年代別に、自然資源に関する意識やその捉え方に、若年層ほど自然の広大さを魅力に感じる等のかなりの差が生じる事がわかる。さらに、全費用が寄与していることに関しては、単純集計により、全体的に交通費と宿泊費を優先する傾向にあるものの、２０代の男女および３０代の男性ではリゾート地での活動費を、また３０代の男女および４０代男性では飲食費を最も優先するサンプルが出て来るという具合いに層ごとに意識の違いが現れている事がわかる。また、スポーツやレクリエーション等のリゾート施設および宿泊施設においても年代別による意識の違いが出ているが、これは年代別により利用目的および意識の差が出てきていることが推測できる

4．おわりに

本研究では、近年、地域振興策の有効な一手段として各地で期待が高まりつつあるリゾート開発を捉えて、これを効果的に行うためにはリゾート客のリゾート行動を解明することが重要であると考えた。そこで、アンケート調査結果に基づいて各種の分析を行い、これらにより、欲求構造およびリゾート地選択構造を策定するための要因の抽出およびその関連性に関する情報を得ることができた。

今後は、本分析の成果を踏まえ、さらに詳細な調査分析をおこなうことにより、リゾートメカニズムの解明のための研究を進めていく予定である。

分析結果（一部）

表－１　リゾート欲求直接要因の数量化Ⅱ類による分析結果　相関比　0.6362

アイテム	カテゴリー	度数	ウエイト	範囲（順位）	偏相関係数（順位）
解放感が得られること	影響する	203	-0.1925	2.6747(1)	0.258931(2)
	どちらでもない	16	0.1152		
	影響しない	15	2.4822		
ストレスの発散が得られること	影響する	183	0.0985	1.1798(2)	0.152783(9)
	どちらでもない	34	0.0106		
	影響しない	17	-1.0813		
季節感が得られ避暑・避寒ができること	影響する	128	-0.0451	1.0216(5)	0.201960(6)
	どちらでもない	78	-0.2154		
	影響しない	28	0.8082		
子供への教育へ役立つこと	影響する	115	0.5745	1.1518(3)	0.384406(1)
	どちらでもない	73	-0.5773		
	影響しない	46	-0.5200		
伝統産業などのその地域独特のものがあること	影響する	127	-0.2657	1.1367(4)	0.240088(3)
	どちらでもない	72	0.0453		
	影響しない	35	0.8710		

表－２　リゾート地選択の直接要因に関する数量化Ⅱ類による分析結果　相関比　0.3245

アイテム	カテゴリー	度数	ウエイト	範囲（順位）	偏相関係数（順位）
全費用がどのくらいになるか	影響する	203	0.0857	1.6553(2)	0.107083(11)
	どちらでもない	26	-0.1864		
	影響しない	8	-1.5695		
自然資源の魅力	影響する	212	-0.0913	1.7287(1)	0.108954(10)
	どちらでもない	17	0.3679		
	影響しない	8	1.6374		
スポーツ等のリゾート施設の充実性	影響する	130	-0.5919	1.6345(3)	0.316750(1)
	どちらでもない	79	0.6045		
	影響しない	28	1.0426		
宿泊施設の魅力	影響する	185	0.0133	1.6189(4)	0.149689(4)
	どちらでもない	37	0.4197		
	影響しない	15	-1.1992		
空港が整備されていること	影響する	101	0.3758	1.2397(5)	0.207549(2)
	どちらでもない	90	0.0199		
	影響しない	46	-0.8639		